

令和7年度 産業界及び地域社会との意見交換会 実施報告書

実施日時：令和7年7月15日（火）10：00～11：30

実施場所：大妻女子大学千代田キャンパス本館11階会議室3

実施方法：対面

参加者：[卸売業]

人事・総務部部长、人事・総務部教育・研修担当部長

[大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部／学校法人大妻学院]

副学長(3名)、常任理事、常勤監事

企画・戦略室部長、企画・戦略室課長、企画・戦略室課員1名

目的：自己点検・評価委員会規程第2条に掲げる「本学の教育研究水準の向上を図り、自らその質を保証することを目的」とし、第4条(3)「自己点検・評価の客観性、公平性を高めるため、学生の代表者や地域社会、産業界等から意見を聴取する」に基づき実施する。また、意見を聴取するテーマは、3つのポリシーに深く関わる「入学者選抜」「カリキュラムの内容や学修成果」「社会との接続」など幅広い事項とする。

配付資料：本学の取り組みに関する意見交換会での質問項目

3つのポリシー一覧

大妻女子大学大学案内2026

令和5年度大妻女子大学自己点検・評価報告書

令和5年度大妻女子大学短期大学部自己点検・評価報告書

実施内容：以下のテーマに基づき、意見交換会を実施した。

今後は、大妻女子大学運営会議や大妻女子大学自己点検・評価委員会にて、本結果を踏まえた教育活動の改善を行う。

＜意見交換会のテーマ及び主な質問、意見＞

テーマ1. 入学者選抜

主な質問

- 本学では、入学者の受入れに関する方針（アドミSSION・ポリシー）を別紙のとおり定めているが、貴社が求める人材と本学の方針はどの程度合致（不足）しているか。
- 近年、大学入試の早期化により私立大学入学者の6割が年内入試（総合型選抜と学校推薦型選抜）（20年前は47%）、残りの4割が一般選抜※で入学している。この傾向により、学生に対し期待する点や懸念する点はあるか。
※年内入試は事前課題・面接・小論文・高校の成績等、一般選抜は主に学力試験を課す入試方式
- 女子大学を進学先として選ぶメリットは何と考えるか。

主な意見

- ・求める人材とアドミSSION・ポリシーについては特に不足等はない。アドミSSION・ポリシーに記載されている「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して、当社に採用されている学生は醸成されている印象を受ける。
- ・早期化は採用側にも押し寄せてきている。年内入試で入学した学生だけではないと思うが、全体的に基礎学力の低下が気になる。
- ・一方で早期化により年内に志望校が決定することで、大学入学までの時間を有効に使うことができるのではないか。
- ・当社を含め多くの企業は、面接でなぜ今の学部・学科に入学したかを質問項目に取り入れているところが多い。当社が質問する理由として、大学受験は中学・高校の義務教育とは異なり、人生で最初の決断をするタイミングではないかと捉えて、どのように考え決定したのかを確認するようにしている。
- ・女子大学は総合大学と比べて就職なども含め、面倒見がよいと感じる。
- ・女子大出身のため、女性が上に立つことが普通の環境であった。学生時代にリーダーの役割を経験したことは、社会に出たときにとっても役立っている。

テーマ2. 学修成果等

主な質問

- 本学では、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を別紙のとおり定めているが、貴社が求める学びの内容（大学で身につけてほしいこと）と本学の方針はどの程度合致（不足）しているか。
- 本学では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を別紙のとおり定めているが、貴社が入社時に身につけておいてほしいと考える資質、能力、知識等と本学の方針はどの程度合致（不足）しているか。また、採用時においてそれらの資質等をどのような方法で評価しているか。
- 各種調査などを見ると、企業からは高いコミュニケーション能力や主体性を求める声が多いように見受けられるが、このような力の育成に成功していると感じる大学はあるか。
- リーダーシップを求める声が多いが、貴社で求めるリーダー像はどのようなものか。
- 文系の出身者の場合、コミュニケーション能力や主体性以外の力で企業が求めるものがあるか。
- ビジネスにおいて社会生活のあらゆる場面で増え続けるデータを収集・整理・分析・活用して、社会の課題を発見し解決できる人材について、貴社でもそのような人材を求めているか。
- 貴社が定義する IT 人材とはどのような人材か。また本学のデータサイエンス学部に期待することはあるか。
- 人種や国籍、性別、性的指向、高齢者や子ども、障がいの有無、メンタルヘルスなど人の多様性、ダイバーシティに着目し、多様性を背景として発生する社会的課題への解決方法を見出せる人材が、社会でどの程度必要とされているか。
- 教育・研究機関である本学との連携・協力の可能性はあるか。ある場合、どのような連携・協力の内容が想定されるか。
- 就職試験の過程において、卒業証明書や成績証明書等の提出が必要と思われるが、学修成果として含めるべき内容や、それらに関する情報の示し方等についてどのようなものであれば採用時に有用となるか。なお、現在文部科学省などから大学に対して、これらの証明書を補足する資料の作成が求められている。

主な意見

- ・当社では自考自走するよう伝えている。その点から主体性と協働は、重要であると思っており、面接でも深掘りをして確認している。
- ・学びの中でどのように身につけるか難しいところであるが、柔軟性が養われるとよい。
- ・営業管理という面では、学生時代のアルバイト経験の有無は重要である。自分の意見をしっかりと伝え、その上で協調することが大切である。
- ・コミュニケーション能力といっても様々な力があると思うが、当社は傾聴する力を重要視

している。

- ・当社ではフォロワー型のリーダーが多い。特に多くのスタッフを抱える店舗ほど、その傾向が強いと感じる。成功しているリーダーも人に任せているフォロワー型が多い。一人一人のスタッフをきちんと見ているし、次のリーダーも育てている。
- ・リーダーシップについては、単に引っ張るような人材だけではなく、様々な人の意見を聞くことができ、力を引き出せるタイプの人材も必要であると考えている。
- ・周囲を巻き込む力を持ったコミュニケーション力があるとよい。
- ・資質という観点からいうと、もともと備わっているものか、大学時代に養われたものかを確認する上でも、面接では中学・高校時代のことも確認するようにしている。
- ・現在の社会において、データを収集・整理・分析・活用して課題を発見し解決する人材は必要である。
- ・当社もデジタルマーケティング部があり、今年やっと1名専門人材をアサインした。今後このような部署や人材はますます重要になると考えている。
- ・当社はプロダクトセンターで障害者雇用の社員が業務を担当している。
- ・教育連携等については、被服学科の吉井先生と現在連携を行っており、当社のユニバーサルデザインに関して若手社員が作成したものについて、先日吉井先生へプレゼンを実施した。
- ・当社は中国圏、台湾圏の顧客も多いが、語学力では英語でのコミュニケーションが取れるとよい。
- ・2015年度から留学生採用を始めており、現在3名を採用している。
- ・当社のキャリアパスは店舗の店長になるまでに平均10年程度である。
- ・各種証明書の補足資料の提出よりも、対面でその人となりを確認することが重要であると考えている。

テーマ3. 社会との接続

主な質問

- 女性管理職を目指すにあたり、必要な教育とはどのようなものが考えられるか。
 - 就職率や就職の質を上げる工夫などアドバイスがほしい。
 - 貴社から見る女子大学のイメージはどのようなものか。また、採用にあたって女子大学に期待することはあるか。
 - 本学から入社した者の評価はどのようなものか。また、入社時点とその後（3年後程度）の評価に変化はあるか。
 - 書類選考時に履歴書やエントリーシートの内容に差異がない場合、どのような基準で採用・不採用を決められているか。
 - 面接試験で合格を得るために、大学の学修に期待することはあるか。
 - 経団連の調査で、大卒者に期待する能力の第一位が「問題設定・解決能力(80.1%)」※²であったが、こうした能力は大学でのどのような教育や経験で身につくと考えるか。
- ※² 出典「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」(2022年1月18日,一般社団法人 日本経済団体連合会)

主な意見

- ・女性管理職を目指すにあたり、小さなコミュニティの場でもリーダーシップや周囲を把握できる力が必要であると考える。
- ・職業観という目線の広げ方を低学年では養ってほしい。付け焼き刃的なことをせず、日常の積み重ねが面接等で表れると思うので、当たり前である挨拶などは日々気にかけてほしい。
- ・当社へ入社した貴学の卒業生は、真面目な者が多い。決して目立つ方ではないがしっかりと成長している。コロナ禍で採用した貴学の卒業生に、入社1年目であったがライブコマースの作成担当に抜擢した。当時は手探り状態であったと思うが、今では主軸となってやってくれている。
- ・当社は書類選考をやめた。また適性試験は十分な成績でも、オンライン面接で失敗する学生もあり、採用する側も判断が難しい状況にある。そのため対面形式の面接を実施している。
- ・PBL やグループワークを主体的に取り組んできた学生は、面接試験の際の受け答えの内容に厚みがある。深掘りすると、取り組み方の状況がわかる。
- ・問題設定・解決能力については PBL やグループワークは有効的ではないかと考える。

以 上